

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	判断が流動的な社会問題を多面的・多角的に考え続ける態度を育む「議論活動」の検討：我が国の食料自給率をめぐる議論活動の分析を通して
Author(s)	大村, 龍太郎
Citation	初等教育カリキュラム研究, 6 : 77 - 87
Issue Date	2018-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/45481
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045481
Right	Copyright (c) 2018 初等教育カリキュラム学会
Relation	



判断が流動的な社会問題を多面的・多角的に考え続ける態度を育む 「議論活動」の検討

—我が国の食料自給率をめぐる議論活動の分析を通して—

大村龍太郎¹

要約

本研究の目的は、小学校社会科学習において、判断が流動的な社会問題を多面的・多角的に考え続ける態度を育むための議論活動の仕組み方や手立てを検討することである。判断の根拠となる要素が多様かつ社会情勢で変化しやすかったり、重視する要素の違いが判断に大きく影響したりする社会問題の場合、問題に対する判断（結論）はその時々で流動的である。よって、ある時点での判断力だけでなく、多面的・多角的に考え続ける態度の育成が必要となる。

食料自給率をめぐる議論活動の実践をもとに検討した結果、「議論活動において一人一人の児童が多面的・多角的に考えられるように、各自の主張やその根拠である視点や視座を交流したうえで、他者から得た別の視点や視座で考えなおすことを促す発問を行う」「児童が自分の考えを見つめなおす契機となる新たな視点や視座を生み出す資料提示を行う」などを含む議論前、議論中の5点の手立てが有効であるといえる。

キーワード：社会科学習，多面的・多角的に考える，議論，公民としての資質・能力，態度形成

1. 研究の背景及び目的

2017年3月に告示された小学校学習指導要領では、社会科の目標として「公民としての資質・能力の基礎」を育成することが掲げられた。その具体として、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う」ことや、「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う」ことなどが示されている¹⁾。

「社会に見られる課題」（本研究では「社会問題」とする）は、その解決のための判断の根拠となる要素が多様かつ社会情勢で変化しやすかったり、重視する要素の違いが判断に大きく影響したりする場合、問題に対する判断は同じ人間であってもその時々で流動的となる。「資質・能力の基礎」の育成を考えるならば、そのような社会問題について一面的な見方・考え方をするのではなく、複数の資料をもとに「様々な側面」²⁾から考えたり、「複数の立場や意見を踏まえて」³⁾考えたりする、多面的・多角的に考える力が必要となる。さらに、変化の激しい社会を生きていく児童には、多面的・多角的に考えてその時点での判断をする力だけでなく、「考え続けようとする態度」も資質・能力として育むことが重要であると考えられる。それらを育むには、複数の資料をもとに多面的・多角的に考えて表現し

¹ 福岡県教育センター

たり、見解が似ていたり異なっていたりする他者との交流によって考えを練り続けることに価値を感じる学習経験が必要であると考えます。つまりは、問題について議論し、価値判断をし、意思決定を行うような学習である。意思決定学習については、小原（1994）⁴⁾ や森分（2001）⁵⁾ がその必要性や具体的な授業設計理論を提唱しており、児童自身が多面的・多角的に思考・判断してよりよい解決策を決定できるようにすることを目指している。社会の形成者育成という現代の要請に応えようとする学習論といえる。しかし、先にも述べたように、「判断が流動的な問題」を議論する場合は、意思決定学習のようにその時点での意思決定力（判断力）の育成だけでなく、今後も多面的・多角的に「考え続けようとする態度」の育成にまで資する議論活動を仕組むべきであろう。

このようなことをふまえ、本研究の目的を、小学校社会科学習指導において、判断が流動的な社会問題を多面的・多角的に考え続ける態度を育むことを意図して仕組む議論活動の有効な仕組み方や手立てを検討することとした。そのために、筆者が実践した単元の中で行った議論活動の仕組み方や手立てを、議論中及び議論後の児童の実態と関係づけて分析する。

2. 研究の方法

次の手順で検討を行う。

- ① 2013年に筆者が実践した第5学年社会科「これからの日本の食料保障」における我が国の食料保障のあり方（食料自給率を上げるべきか）をめぐる議論活動の仕組み方や手立てを整理する。
- ② その実践における児童の発言記録、作成物、アンケート回答から、「多面的・多角的に考え続ける態度」やそれにつながる多面的・多角的に考える姿がどの程度表れているかを分析する。尚、ここでの「多面的・多角的に考える」とは、先述の学習指導要領に則り、以下のように定義する。
 - ・「学習対象としている社会的事象自体が様々な側面」²⁾ が多面と示されていることから、複数の側面を見て考えることが「多面的に考える」となる。よって、子どもが複数の視点から考えるとき、それを「多面的に考える」とする。
 - ・「児童が複数の立場や意見を踏まえて考えること」³⁾ が「多角的に考える」ことであると示されていることから、複数の立場や意見をふまえる、つまり、複数の視座をふまえて考えたとき、それを「多角的に考える」とする。
- ③ ②の結果をもとにその要因を考察し、そこから多面的・多角的に考え続ける態度を育む議論活動の仕組み方及び手立てのあり方を検討する。

3. 研究の実際

3.1. 第5学年社会科実践「これからの日本の食料保障」における議論活動の仕組み方及び手立て

3.1.1 教材

我が国のカロリーベースの食料自給率の低さは、教科書等でも取り上げられ、今後の安定した食料保障のためには、我が国の食料自給率を上げていくことが大切だと考えられがちである。農林水産省も、食料自給率を向上させようと全国に呼びかけ、“FOOD ACTION NIPPON”などの取組を推進して

いる。しかし昨今、食料自給率を上げようとするに対して異なる見解を示す研究者も複数出てきており⁶⁾、注目を集めている。カロリーベースの自給率を上げることよりも、輸出入を推進する方が食料保障も日本の農業も安定するという見解を複数のデータをもとに述べている。このように研究者でも意見が分かれているという事実や、その考えの根拠としている事実を教材化し、社会情勢や判断要素の何を重視するかで判断が流動的となる社会問題を論題とした議論ができるようにした。

3.1.2 単元計画

本実践は、次のように単元を計画し、事実や関係を踏まえた上で議論活動に行きつく流れとした。

【単元計画 全9時間】（○の中の数は時数。）

1 輸入がストップしたら食生活がどうなるかを知り、単元をつらぬく学習問題をつくる。①

食料を安定して確保していくために、日本はこれからどうしていくべきなのだろう。

2 我が国の食料輸入や自給率の現状とその要因を調べる。

（事実追究問題）日本はどのような食料を、どの国からどのくらい輸入しているのだろう。

(1) 輸入と自給の現状を調べてまとめるとともに、関係追究問題をつくる。②

（関係追究問題）日本の食料自給率は、どうしてこんなに低くなったのだろう。

(2) 食料自給率が低いわけを調べてまとめるとともに、価値判断問題をつくる。②

（価値判断問題）日本は、「食料自給率を上げること」が大切なのだろうか。

3 我が国は食料自給率を上げるべきなのかを考える。

(1) 資料を根拠に自分の考えをまとめる。②

(2) 食料自給率を上げるべきかについて議論をする。①《議論活動》

4 調べた事実と自分の考えを新聞にまとめ、保護者や地域の方に発信する。①+課外

3.1.3 議論活動前の手立て

上記単元計画の2 (2) の後半、我が国の食料自給率が低いわけを関係的にとらえた児童たちに、「食料自給率を上げるべき」「上げなくてよい」と見解の違う二人の研究者を紹介した。すると児童たちは、「すごく勉強している大人でも意見が分かれるのか」と興奮し、価値判断問題はより切実なものとなった。議論活動の前に、まず児童はそれまでの追究をもとに食料自給率を「上げるべき」「上げなくてよい」のはじめの判断をした。そして、様々な資料をもとに自分の考えとその根拠を明確にする時間を設けた（単元計画3 (1)）。それらの資料は、食料自給率について異なる見解を示す研究者たちが根拠としている事実を教材化したものを含んでいる。具体的には、食料自給率を上げることによる我が国のメリットと判断できる様々な統計等の事実資料、同様に上げないことによるメリットと判断できる資料を、必要に応じて文言等を簡易化して作成しなおし、それを教室やパソコン室で児童が検索して調べられるようにした。また、自分の考えの根拠となる資料を収集する能力が十分ではなく、戸惑っていた児童には、調べやすい資料を提供し、調べ方を助言した。

3.1.4 議論活動の仕組み方と手立て

議論活動は、以下の手順で行うように組んだ。

① 前半は「上げるべき」「上げなくてよい」それぞれの立場で、自分の考えやその根拠、相手への

質問・意見を出し合う。

② 後半、教師が次の3つの資料を提示し、それもふまえて意見を出し合い、考えを深める。

i : フードマイレージ (食料の輸出入にどれだけの二酸化炭素を排出しているか)

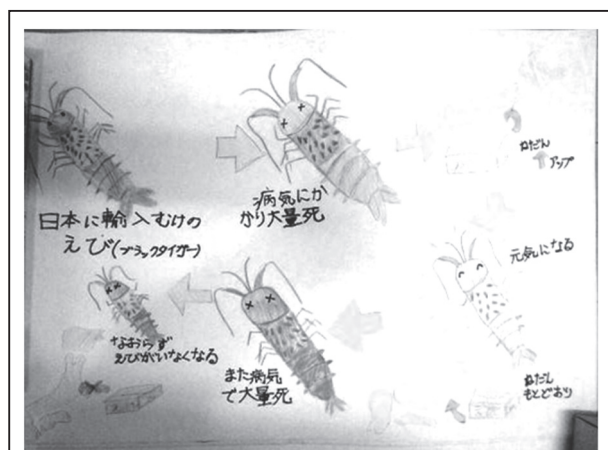
ii : 飢餓に苦しむ国と我が国の食料廃棄量 iii : 我が国の食料輸入による外国の利潤

i は世界の自然環境への影響, ii は世界に食料が平等に行きわたっていないことをとらえるもので、輸入が多すぎることに對するマイナス資料である。iii は輸入によって、我が国だけでなく、世界の人々の中で豊かになっている人がいることがわかるプラス資料である。これらの資料を提示することで、我が国の利益・不利益のみでなく、世界まで広げた多様な視点や視座を組み込み、我が国の食料保障をより多角的・多面的に考えることができるようにしようとした。そして、どちらにもメリット・デメリットがあり、食料保障のあり方について今後も多面的・多角的に考えていかなければならないという認識へと導こうとした。

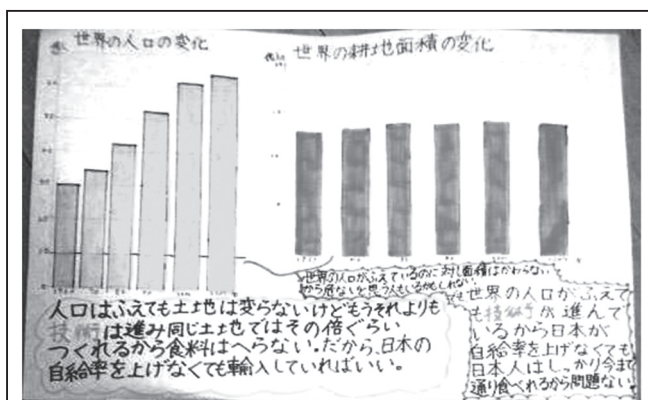
3.2 実際

3.2.1 議論活動前の「資料を根拠に自分の考えをまとめる」段階

これまでの追究をもとに「上げるべき」「上げなくてよい」のはじめの判断をし、資料をもとにして自分の考えとその根拠を明確にする活動を仕組んだ。児童は、自分の考えを明確にするとともに、議論活動に向けて、自分の考えを伝えるためのフリップ作成も行った。



資料1 輸入むけブラックタイガーが大量死した事件を根拠に、輸入が不安定になったときのために自給率を上げるべきだと考えたS児の作成フリップ



資料2 同じ耕地面積でもたくさん作れる技術が進んでいるというデータを根拠に、食料危機は来ないから輸入は減らなくていいと考え、自給率は上げなくてよいとしたA児のフリップ

3.2.2 「食料自給率を上げるべきかについて議論をする」段階 (議論活動の場面)

前時に明確にした考えとその根拠をもとに、フリップを使いながら議論を行った。

子どもたちは、自分の考えやその根拠となる事実を、相手に伝わるように意欲的に表現し合ったり、友達の考えを聞いたりして白熱した。調べ学習に戸惑っていた子どもも含め、発言は学級の子ども全員が行うとともに、それぞれの考えに対して「そうかなあ。」「なるほど。」「いや、僕は…」などの反応が数多く飛び交うなど、議論は白熱した。発言内容は、以下のようなものであった。(○の数字は発言順。細かいつぶやきや反応は、紙幅の都合上、省略している。また、【 】はその児童が根拠にしている視点、[]はその児童が根拠にしている視座と分析できるものを筆者が記した。)

上げるべき	上げなくてよい
<p>① 上げた方がいい。相手国との関係が悪くなったり、もめたりして、輸入がストップしたら困る。だから、そうなったときに困らないように上げたほうがいい。 【相手国との関係】</p> <p>③ でも、相手国の異常気象で、作物ができなくなったら、輸入ができなくなって、困るよね。さらに外国で、地震などが起きないとは限らない。インターネットで調べたところ、(プリントアウトしたたくさんの異常気象の事例を見せながら) こんなにも異常気象が起きている。たとえば、中国南部では、2013年7月以降、雨が少なくなって、農作物への被害などが伝えられている。中国中部から朝鮮半島にかけての広い範囲では、逆に大雨になり、被害が発生しているなどの例がある。このようなことが起こっているのだから、いつ輸入がストップするのかわからない。だから、輸入がストップしたときのために自給率を上げる方がいい。 【自然災害等による輸入ストップの危険性】</p> <p>④ ほかにも、自給率を上げるべきだと思う。最近のNHKニュースで、東南アジアのブラックタイガーが、病気でたくさん死んで、輸入するためのお金が高くなったそうだ。病気にかかり、魚がとれなくなってしまったら、売っている魚の値段が上がると。病気がなくなったら、魚の値段も戻るけど、病気にかかり、ずっと病気がもどらなかつたら、えびの輸入ができなくなるかもしれない。だから、自給率を上げた方がいい。 【自然災害等による輸入ストップの危険性】</p> <p>⑥ 自給率は上げるべき。もし、今、輸入がストップしたら、こんな食べ物(日本の自給しているものだけの献立を提示)になる。それでいいのか。 【消費者の立場】</p> <p>⑨ 違う点からで、自給率は上げるべき。世界の人口は、どんどんふえているけど、土地は増えていない(そのグラフを提示)。ということは、食料が足りなくなるということだから、先で食べられなくなるということ。だから上げておくべき。 【人口増と土地の関係】</p> <p>⑪ 自給率が低かったり、これからもっと下がったりすると、漁師や農家は、競争しなければならなくなるから困る。外国からの輸入を減らして、日本の農作物を増やせば、農家も助かるはずなので、自給率は上げるべき。 【我が国の農家や漁師の立場】</p> <p>⑬ 世界の作物が少なくなって、値段が上がったら買いづらくなって困る。輸入に頼るといことは、何かが起こって、食料が少なくなったら、輸入額も高くなるということだ。それに、日本は、今、お金持ちだからいいけど、もし、お金持ちでなくなったら、買えなくなる(絵で例を示しながら説明)。だから、ふだんから、自分達で作れるようになっておいた方がいい。 【輸入額】</p> <p>⑯ でも、他の国がこれからお金持ちになっていく可能性がある。お金持ちになったら、より高く買ってくれる方に売るので、そうやって苦しい競争をするのなら、自給率を上げた方がいいと思う。 【他国との競争】</p>	<p>② いや、自給率を上げる必要はないと思う。①の意見に反対で、相手国と仲良くしていれば輸入をとめられることはない。それに他の国との輸入を少なくしてしまったら、あとからまた輸入をふやそうと思ったときに、外国の人たちが、「日本は自分勝手だから輸入はしなくていい」と思うと、日本は困るので、このまま輸入を続けていった方がいい。とにかく、相手国と仲良くすることを大事にすべき。 【相手国との関係】</p> <p>⑤ いや、自給率を上げる必要はないと思う。もし③や④の理由で輸入がストップするかもしれないのなら、輸入する国を増やせばいい。例えば、A国が輸入がストップしても、別の国から多く輸入をすればいい。そのためにも、輸入はたくさんすべきで、自給率を上げる必要はない。 【相手国の数】</p> <p>⑦ だからこそ、自給率を上げる必要はないと言っているんだ。そんな食べ物は嫌だから、外国と仲良くして、輸入を続けなければ問題はない。 【消費者の立場】</p> <p>⑧ 日本は土地がせまいから、アメリカのようにたくさん作ることができない。それで自給率を上げるということは、食べ物が減るかも知れないのではないかと。 【我が国の国土の面積】</p> <p>⑩ 同じグラフも調べたが、わたしは上げる必要はないと思う。世界の人口が増えても、食料はなくなることはない。調べたところによると、農業の技術が進んで、同じ広さの土地でも、生産できる農産物の量は増えている。絵で示すとこういう感じになる。(同じ面積で農産物が増えている絵を提示)。このおかげで、むしろ、土地が余るところすら出てきているほどだ。ということは、人口が増えても、食料がなくなる可能性は低いので、今のままでいいと思う。 【人口増と土地の関係】</p> <p>⑫ それを言うなら、自給率はそのままがいい。調べたところによると、日本の野菜の生産額はとても大きいからだ。(フリップで具体的なグラフを提示)たとえば、ねぎの生産額世界一は日本だ。他の野菜がおいしくて高い値段をつけられて、日本だけでなく、外国でも売れる。これは、外国と競争して強くなっているからだ。だから、このまま外国と競争し、輸入もしていけばいい。 【我が国の農家や漁師の立場】</p> <p>⑭ でも、ほか調べた資料では、日本はいろいろなものを輸入しているが、そのうち、食料輸入に使っているお金は、わずか10%しかない(グラフを提示)。ということは、日本が今ほどお金持ちでなくなっても、まだ十分輸入できるといことだから、自給率は上げなくていいと思う。 【輸入額】</p> <p>⑮ 付け加えると、食料の輸入に使う輸入額のうち、半分以上が、ワインやカマンベールチーズなどのぜいたく品。それまで考えると、普通の食事に使う輸入額は、全輸入額の1%ほどしかないから、お金が足りなくなるということはない。 【輸入額】</p>

<p>⑱ ちょっと別のところから、自給率を上げるといことは、田畑を増やすということで、その意味でも上げた方がいい。田畑は、自然災害をふせぐなどの役割もある。岡山県では、使わなくなった田のところ、土砂崩れが増えたそう。</p> <p style="text-align: right;">【国土への影響】</p> <p>⑳ 輸入のマイナス面で付け加えるけど、4年前に、中国から来たラーメンから薬物が入っていたというニュースがあった。そういうことを考えると、自給率を上げた方がいい。安さも大事だけど、安全はもっと大事だと思う。</p> <p style="text-align: right;">【安全性】 【消費者の立場】</p> <p>㉑ その万が一が起らないようにするために、自給率を上げるべきだと思う。</p> <p style="text-align: right;">【安全性】 【消費者の立場】</p> <p>(ここで、教師は3つの資料を提示)</p>	<p>⑰ 私が調べた資料では、自給率を5パーセント上げて、今のすべて同じものを食べようとするだけで、いろいろな野菜の値段がかなり上がるそう(資料フリップ提示)。自給率を上げるほど、値段が高くなるのなら、国民の生活はきつくなるので、上げない方がいい。</p> <p style="text-align: right;">【消費者の立場】</p> <p>⑱ 輸入を減らし、自給率を上げて値段が高くなるのと、値段が安いままだったらどっちがいいかとみんなにたずねたら、きっと安い方がいいと思う。このクラスでもそうだったし、家族に聞いてもそうだった。</p> <p style="text-align: right;">【消費者の立場】</p> <p>㉒ 外国の食べ物は、確かに安全が心配という人が多い。しかし、ほくが調べた資料では、そういう不安があるからこそ、このように(検査の様子の資料提示)、今はものすごく厳しい検査をしているそう。外国で、日本に入る前に検査、さらに、日本に入ってくる時にも検査をしているものもあるそう。だから、安心していいはず。</p> <p style="text-align: right;">【安全性】 【消費者の立場】</p> <p>㉑ 確かに、安全は心配かもしれないけど、あれはめったにないからニュースになるんであって、普通はほとんどないと言えるのではないかなと思う。</p> <p style="text-align: right;">【安全性】 【消費者の立場】</p>
<p>i フードマイレージ(食料の輸出入にどれだけの二酸化炭素を排出しているか) ii 飢餓に苦しむ国と我が国の食料廃棄量 iii 我が国の食料輸入による外国の利潤</p>	
<p>(資料提示後、勢いのあった発言が一時沈黙。じっくりと考える様子が見られる。)</p>	
<p>㉒ 外国で、なかなか食べられない国があって、こんなに苦しんでいるのなら、やっぱり輸入を減らして、その分を自分たちで作った方がいいのかな、と思う。</p> <p style="text-align: right;">【外国の飢餓に苦しむ人たちの立場】</p> <p>㉑ …それはみとめるけど、日本にだって、農家や漁師がいる。その人たちのことを考えるのなら、自給率は上げるべきだと思う。</p> <p style="text-align: right;">【日本の農家や漁師の立場】</p> <p>㉒ それに、フードマイレージをみると、日本は、船や飛行機をたくさん使っていて、世界の中でも、特に環境によくないことをしている。日本だけじゃなくて、世界のためにも、自給率を上げた方がいい。</p> <p style="text-align: right;">【世界の環境】</p>	<p>㉑ でも、インドネシアのエビ業者の人は、それで生活できているんだったら、日本は輸入をやめない方がいい…。さっきまでは上げるべきと思っていたけど…。</p> <p style="text-align: right;">【外国の輸出業者の立場】</p> <p>㉒ …わかるけど、でも、日本が輸入をやめて、日本に輸出して生活しているいろいろな人の仕事が無くなったらかわいそう…。</p> <p style="text-align: right;">【外国の輸出業者の立場】</p> <p>㉑ わからなくなってきた。</p>

このような議論を終え、教師は、「一つや二つの根拠ではなく、いろいろなことをふまえて考え続けなければならない問題のようだね。」と伝えた。今後はこれまで学んだことや議論で考えたことを整理し、現段階での自分の結論を含めて個人新聞にまとめていくことを確認し、この時間を終えた。

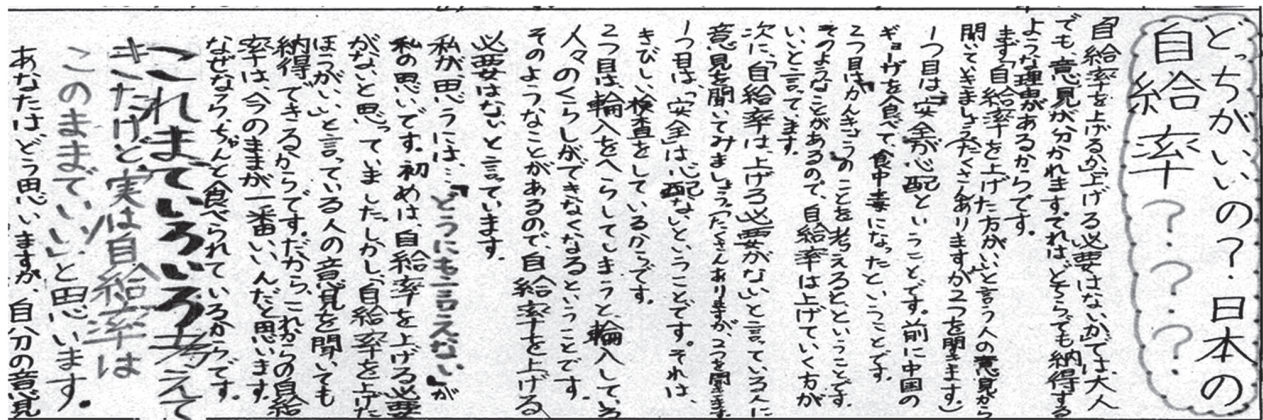
発言記録から、前半では**【相手国との関係】****【自然災害等による輸入ストップの危険性】****【相手国の数】****【我が国の国土の面積】****【人口増と土地の関係】****【輸入額】****【他国との競争】****【国土への影響】**など様々な視点からの考え、**【消費者の立場】****【我が国の農家や漁師の立場】**など複数の視座からの考えが表出している。また、後半の教師の資料提示後は、**【世界の環境】**という視点、**【外国の飢餓に苦しむ人たちの立場】****【外国の輸出業者の立場】**という二つの視座からの考えが付加されていることがわかる。

3.2.2 議論活動後の児童の記述及び変容の結果

今日は、昨日までに準備していたものをもとに話し合ったけど、本当にまよいました。なぜなら、「上げたほうがいい」「上げなくてもよい」のどちらの考えも、その理由を聞いたら、「たしかにそうだなあ。」と思うものばかりだったからです。私は耕地面積が今のままでも、食料が足りなくなることはないと発表したけど、今でもそうだと思います。でも、それだけでは決められないと思いました。確かに、「安心」とか「安全」を考えると、日本で作った方がいいのかなと思います。先生が後から出した3つの資料を見て考えると、ますますわからなくなりました。世界には食べられない人がいるし、でも、日本に輸出している人の生活を考えると、日本の輸入が多いことが悪いとも言えないと思います。でも、環境を考えると、運びすぎはよくないです。こうやって、でも、でも、っていうのがつづいてしまいます。自給率は、いろんなことを考えないといけないし、どれを特に大切にすることも変わってくると思うので、新聞を作りながら、もう一度考えたいと思います。今日は、途中からみんなで「う～ん？」とまようところがおもしろかったです。(下線は筆者)

資料3 A児の学習後のふりかえり記述

A児は、友達の考えやその根拠を聞いたり、教師の資料をふまえて、多面的・多角的に考え、迷っていること、議論を終えた後も考えようとする意欲があることがうかがえる(資料3)。



資料4 A児の社説

最後に作成した新聞の社説(資料4)において、A児は【安全面】【世界の環境】という視点と、「輸出業者」という視座を根拠に、「食料自給率は現状維持でよい」という現段階での結論を出している。

社説において、このように三つ以上の視点や視座をふまえて現時点での結論を出していることを多面的・多角的に考えているとするならば、その児童の割合は89.2%であった(表1)。

表1 社説における視点や視座が三つ以上の児童の割合

根拠となる視点や視座が三つ以上の児童	根拠となる視点や視座が二つ以下の児童
89.2%	10.8%

また、児童に議論活動や今後にかかわるアンケートを実施した結果、表2のような結果となった。

表2 討論後のアンケート (28名中)

設 問	A とてもそう思う	B まあまあ思う	C あまり思わない	D 思わない
①議論では、いろいろな視点や立場で考えることができましたか。	57.1%	28.6%	14.3%	0%
②理由を書きましょう。(典型的・代表的な記述を記載。)	・いろいろな考えやそのこんきよとなる事実が出たから。 ・先生が出した資料で、考えていなかったことまで考えたから。		・いろんなことからど んどん意見が出て、よ くわからないことが あったから。	
③議論後、「まちがいなくこちらの方がいい」とすぐに決められましたか。	0%	7.1%	39.3%	53.6%
④我が国の食料保障のあり方は、納得のいく結論が出せましたか。	60.7%	25.0%	7.1%	7.1%
⑤④の理由を書きましょう。(典型的・代表的な記述を記載。)	・たくさん考えて出した今の結論だから。 ・いろいろあるけど、どれかを大切にしないから。 (その他、議論のときの具体的な根拠を述べているものが多数。)	・完全にこちらとまでは言えないけれど、いろいろ考えてこちらだと決めたから。 (同様の記述が多数)	・どちらかを選んだら、困る人や困ることが出てくるから。 ・今のところこれにしようと思うしかなかったから。	・どっちも完璧じゃないから。
⑥これからも、いろいろな視点や立場をふまえて食料の確保の仕方を考えて続けていきたいと思いませんか。	67.8%	28.6%	3.6%	0%
⑦⑥の理由を書きましょう。(典型的・代表的な記述を記載。)	・これからも世界は変わっていくから、そのたびに考えないといけないと思う。 ・いろんな条件があるからすぐには出せないけど、そのときで最善の答えを出さないといけないことだから。 (同様の記述が多数。)	・いろいろなことや立場を考えるのが難しいけれど、考えていかないと、食料が安定して食べられないかもしれないから。 ・いろいろと複雑で難しいから、ときどきしか考えられない気がするけど、考えたい。	・いろんなことが出てきてよくわからなかったから。	

3.3 総合考察

表2の⑥の結果を見ると、最終的には「今後も考え続けていきたい」とするAまたはBに回答が集中しており、その理由をみても、概ね多面的・多角的に考えようとする態度が育まれているといえる。これは、問題自体が児童にとって「考えるべきである、考えたい」という意欲を喚起する問題であったこと、またそれを喚起するような出会わせ方をしたこと、議論の前半において、友達と多様な根拠をもとにした妥当性のある考えを交流させたこと、さらに後半で世界にまで目を向けての視点や視座で考えざるを得ない資料を提示したことで、「様々な視点や立場をふまえて考えると、簡単に決められることではない」という実感を持たせられたことがその要因と考えられる。

しかし、表2の①の設問について、多面的・多角的に考えることがあまりできなかったと感じている児童が14.3%おり、AにはいたらずBであった児童も28.6%いる。あれだけ多くの視点や視座で活発に発言が続いたにもかかわらず、Aが57.1%にとどまっている。これは、一人一人の考えは表出できているものの、一人一人が自分の考え以外を受け入れたり、新たな視点や視座に自身を「転換して」考え

たりすることが十分にできていないということである。これには二つの要因があると考えられる。一つは、議論に臨む前の自分の考えを形成する段階の仕組み方である。教師は児童に、はじめの考えとして、それまでにとらえた事実や関係のみを根拠として「上げるべき」「上げなくてよい」の判断を迫り、その根拠をあらためて調べさせるという順序をとっている。これでは、自分の判断に有効な資料のみに目が行き、多面的・多角的に考えようとする意識がもてなかったと考えられる。二つは、自由な発言を基本としたこのような議論では、友達の見見をもとに自ら視点や視座を転換しながら考えていける子どもには有効である一方、自分の調べた事実や考えに固執しがちな児童は、次々と出てくる視点や視座に追いつけず、混乱を招いたと考えられる。議論のスタートで視点や視座がばらばらであるのは構わない。しかし、共通の問題として考え合うとき、様々な視点や視座が明らかになってきた時点で、「この視点で見るとどうか。」「この立場に立つとどう見えるか、考えるか。」と発問するなど、児童が視点や視座を意図的に転換しながら考えなおせるような教師のコーディネートが必要であったといえる。また、それらを整理して考えを見直し、更新し続けるためのPMIシート等の物的支援もあるとより効果的であったと考える。視点や視座の意図的な転換により、学級の全体的な様相ではなく、一人一人が議論において多面的・多角的に考える経験ができていれば、考えることの難しさよりも、多面的・多角的に考え合うことによって社会の課題に対する考えが深まる価値を味わい、「多面的・多角的に考え続けたい」と感じる児童が増えたのではないかと考えられる。アンケート⑥もAがより増えたのではないかと考えられる。また、Cであった3.6%（1名）の児童も、視点や視座の転換による考えの深まりを実感でき、BやAと感することができたのではないかと考えられる。

社説においても、10.8%の児童が、二つ以下の視点や視座で考えを述べていたが、その児童はアンケート⑥においても、BまたはCの児童であった。議論において、複数の視点や視座で出し合うだけでなく、その意図的な転換を位置付けてじっくりと考えさせることの必要性がここでもうかがえる。

4. 研究の結論と今後の課題

検討の結果、判断が流動的である社会問題について、多面的・多角的に考え続ける態度を育むための議論活動は、次のような仕組み方や手立てが有効であるといえる。

- 議論活動の前提として、「食料自給率を上げるべきか」など、研究者でも見解が異なるような社会問題を児童が学習問題化し、考える意欲を喚起できるような導入の工夫を行うこと。
- 児童が複数の視点や視座で考えるための根拠となる事実を調べられるように、人的・物的・空間的支援（提供する資料の検討含め）を行い、議論活動前にそれを調べる時間を十分に保障して考えを形成させること。
- 議論活動において、学級の全体的な様相ではなく、一人一人の児童が多面的・多角的に考えられるように、意見の出し合いによって複数の視点や視座が明らかになった時点で、各自の根拠となっている視点や視座を転換して別の視点や視座で考えなおすことを促す発問を行うこと。
- 議論活動において、児童が考えを更新し続けるために、複数の視点や視座から考えたことを個々で整理できるPMIシート等の物的支援を行うこと。
- 議論活動において、児童の考えが固定化したり、議論が硬直化したりした場合に、児童の考えをさらにゆさぶり、再考せざるをえないような新たな視点や視座を生み出す資料提示を行うこと。

これらすべてを通して、「このような問題は多面的・多角的に考え続けなければならない問題であり、かつ考えたり議論したりすることに価値がある」という実感をもたせることが有効である。

今後は次の二つを課題としたい。

一つは、結論で述べた5点を満たす議論活動を位置付けた実践を再度同じ教材で行い、その有効性を立証することである。本研究では、筆者の実践の批判的検討から、課題克服の方策も含めて5点を明らかにした。改めて実践を行うことでそれが妥当であることを立証する必要がある。

二つは、食料保障以外の「判断が流動的な社会問題」について本研究で有効とした5点をふまえて議論活動の実践を行い、検討することである。それにより、手立ての汎用性の程度を明らかにするとともに、どのような資質・能力を育むのか、どのような社会問題を話し合うのかによって手立てを変え、必要が出てくる可能性もある。それらを実践研究を通して明らかにしたい。

注

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領」2017年3月, p. 30. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf (2017年9月4日)
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』2017年6月, p26. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/09/01/1387017_3_1.pdf (2017年9月4日)
- 3) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」2017年6月, p23. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/08/24/1387018_3_1.pdf (2017年9月4日)
- 4) 小原友行「社会科における意志決定」社会認識教育学会編『社会科教育ハンドブック』明治図書, 1994年, pp167-176.
- 5) 森分孝治「市民的資質形成における社会科教育—合理的意思決定—」社会科教科教育学会『社会系教育学研究』第13号, 2001年, pp. 46-47.
- 6) 川島博之『食料自給率の罨』朝日新聞出版, 2010年8月, や, 浅川芳裕『日本は世界5位の農業大国』講談社, 2010年2月, などでは、食料自給率を上げず輸出入を推進すべきだと言う主張が様々なデータを根拠に述べられている。

Developing Critical Thinking and the Ability to Think from Multiple Perspectives Using Class Discussion Activities about Controversial Social Issues

Ryotaro OMURA

Fukuoka Prefectural Education Center

Abstract

This paper will propose a method for developing critical thinking skills and the ability to think from multiple perspectives using elementary school class discussion activities about controversial social issues.

For students who live in a changing society, it is important to develop not only judgment abilities but also the ability to think from multiple perspectives about social issues. To help students develop these skills, this research found that teachers need to do the following :

- Start each unit in a way that makes students want to discuss the social issue. For example, introduce two researchers with different opinions.
- Before the discussion, provide various materials to the students for thinking from multiple perspectives, and give enough time for students to research and think.
- During the discussion, advise students to change the perspective underlying their ideas so that each of them can think from multiple perspectives.
- During the discussion, provide thinking tools that help students think from multiple perspectives. For example, provide the Pluses, Minuses and Interesting (PMI) chart. (Advise students to use the PMI chart to evaluate an issue, compare advantages and disadvantages, and make decisions.)
- During the discussion, if the students persist in their opinions, present new materials so that students want to reconsider the social issue from another perspective.

Keywords : social studies, think from multiple perspectives, discussion, citizenship,
develop an attitude